

令和8年熊本地震 災害調査報告 (2026年8月6日実施)

熊本大学 工学部 土木建築学科
熊本大学 くもと水循環・防災研究教育センター

調査概要

2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震の災害調査を8月6日に実施した。調査隊は以下のメンバーで構成され、メンバーの安全・衛生、および被災地の交通状況の配慮を徹底した。

調査箇所は熊本県八代市である。特に、八代港の護岸被害および断層沿いの被害に注目した。

なお、調査に当たっては熊本港湾・空港整備事務所および八代河川国道事務所に協力いただいた。ここに記して謝意を表す。

今回の災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

調査隊メンバー

棕木俊文（熊本大学）

高野大樹（熊本大学）

稲垣直人*（熊本大学）

*報告書文責

■お問い合わせ先

くまもと水循環・防災研究教育センター 減災型社会システム部門

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

熊本大学黒髪南地区工学部一号館4階A426

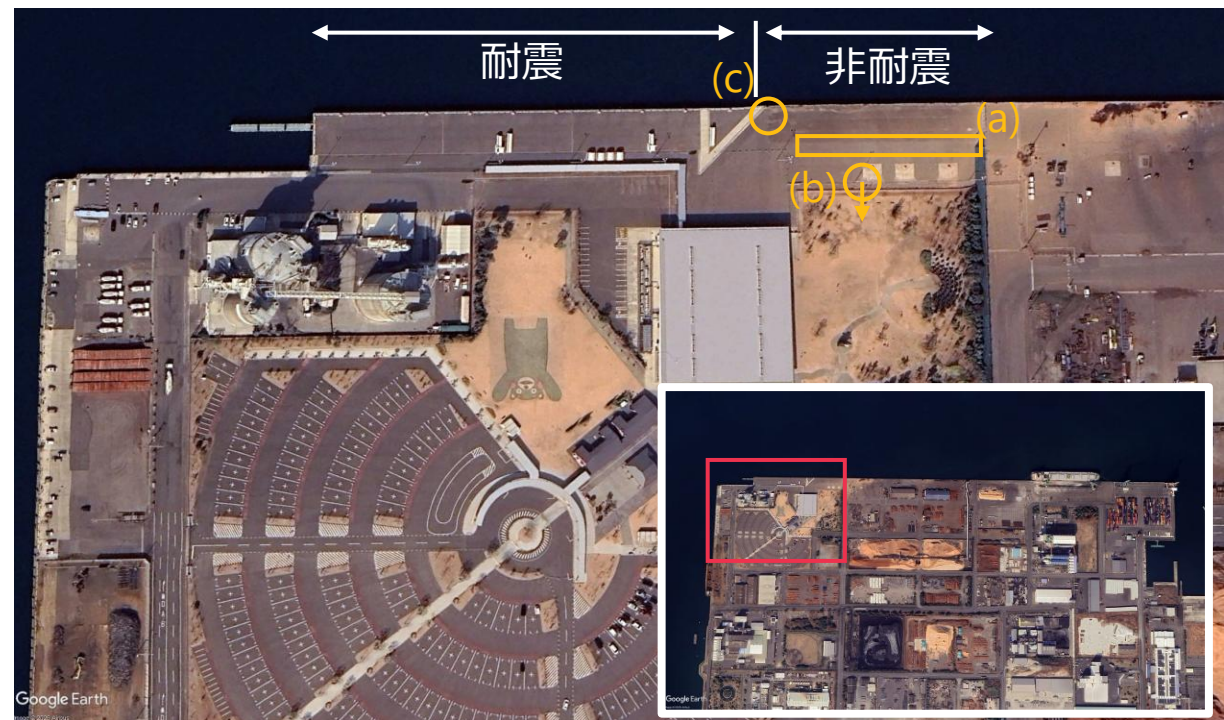
TEL: 096-342-3489

Email: gensai2@kumamoto-u.ac.jp

調査範囲



八代外港



八代外港



↑→ はらみ出しが認められた



八代外港



川田橋



↑ 上り線の桁ずれ

↓ 断層は橋梁に平行な方向に出現



片野川橋

断層は橋梁を横切るように出現



片野川橋

↓ 顕著なずれが畑地を横切るように出現



→ 斜面崩壊が生じたが、木製矢板を破る規模ではなかった

球磨川河川緑地

→ 出現したずれの
付近には河砂・河
礫が噴出



→ ずれのパターンから、右横ずれ断層と
考えられる

まとめ

(八代港)

- 陥没や段差の出現，液状化などの被害が認められたが，港湾機能を著しく損なうものではなかった。
- L2地震動に対して，耐震補強した区域の被害は軽微だった。

(断層沿い)

- 九州自動車道の被災二橋（川田橋，片野川橋）では，断層に沿った方向に変位が生じていることが分かった。
- 調査範囲では，鉛直方向のずれ変位は片野川橋周辺が最大だった。

(その他)

- 家屋被害については，比較的古いものの被害が顕著であった。一方で，同一地域・類似の家屋でも被害に差があることが認められた。このような局所的な被害をもたらす要因として，共振現象が疑われる。